

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんの画像検査の記録や通常の診療で行った検査データを使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、画像検査の情報や保管されている検査データを利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	Micro B-Flow Imaging を用いた背景肝門脈分枝描出能の比較：Convex probe と Linear probe を用いた後ろ向き検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 第 3 内科 教授 日浅陽一
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2030 年 3 月 31 日
対象となる方	2026 年 5 月から 2028 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち GE HealthCare 社 LOGIQ E10®を用いて肝臓の超音波検査をうけた患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、身体所見、背景肝疾患、脂肪肝の有無、肝予備能、腹水や脾腫の合併、側副血行路の有無。血液検査データ、背景肝の非侵襲的評価 (利用する超音波情報) 通常の診療で撮像した cine loop 画像、撮像条件
研究の概要 (目的・方法)	B-Flow はドプラ法とは異なる原理で血流エコーを直接強調し、一般的なカラードプラにみられる blooming や aliasing の影響を抑えながら、血管構築を高い空間・時間分解能で表示できる技術である。Linear probe は高周波による高い空間分解能が期待される一方、深部病変では減衰が大きくなる。Convex probe は分解能では不利になり得るが、広い視野と深部到達性を備えている。当科で腹部超音波検査を受け、同一検査内で Convex および Linear probe による Micro B-Flow

	による既存の超音波画像データが保存されている患者を対象として、同一または解剖学的に対応する門脈系を基準門脈枝から連続して追跡できる最大分枝段階を両プローブ間で比較する。併せて、末梢分枝描出率、最深描出深度、同一血管の画質、撮像深度および背景肝の状態と描出能との関連を検討します。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院第3内科 中村由子 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5308